

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「主の平和に生きる私たち」

— 癒しと救いの原点をおぼえて —

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

(ヨハネ20:27d、聖書協会共同訳)

それぞれに新しい環境や任地での働きが始まっておられると思います。野外ではマスクを外して歩く方が徐々に増えてきました。対面での会議や制限を緩和しての礼拝に戻りつつありますが、それぞれの地域や建物の状況などにより様々だと思います。「マスクをする、しない」の判断がそれぞれに委ねられています。私たちは自分と違う価値観や行動規範を持つ人を非難したくなりますが、「正しさよりも優しさを」という感覚を取り戻していきたいと思います。

イエスさまが復活された夕方、弟子達の真ん中に立ち、「あなた方に平和があるように」と言われました。「シャローム」という日常の何気ない挨拶の言葉が、イエスさまを失った弟子達にとって、日常を失い心のバランスを崩した人々にとって、癒しと救いの言葉となりました。一度目にイエスさまが現れた時にトマスはその場所には居合わせず、全く信じようとしませんでした。このトマスの「疑い」は、私たちの教会の現実でもあります。それは、地上の教会が、間違った方向へと進んだり、疑いを持ったりしてしまう人間の集まりだからです。だからこそ、イエスさまは「それでいいよ」「そこから始めなさいよ」と、疑っているなら、その指を私の手に当ててみなさい、その手を脇腹に差し入れてみなさい、あなた方に平和があるようにと、二度目に現れて言われられました。もし私たちがいつも正しく、まったく疑いを持たない完璧な人間であるとしたら、イエスさまとの関係は空しいもの、十字架や復活は不必要で無意味なものとなってしまいます。

私たちが、弱かったりずるかったりするからこそ、イエスさまを通して神さまに正してもらいたいと願うのです。私たちはここから始めたいと思うのです。もしこの原点を見失ってしまい、「自分は正しい」とか「疑わない」と言い張ってしまうとき、人を非難し、優しさに欠ける言動となっていきます。誤解を恐れずに言うと、「正しくなくてもいいよ」、正しくなくてもいいけど、自分の弱さやずるさを自覚して、「信じる者になりなさい」というイエスさ

口会議・プログラム等予定

(2023年4月25日以降・前回未掲載分)

4月

- 25日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議 [+Web]
- 27日(木) 宣教協議会参加者オリエンテーション～清里への道 [Web]
- 28日(金) 管区事務所職員研修 [榛名]

5月

- 1日(月) 宣教協議会ぶどうの枝分科会(女性デスク編) [Web]
- 8日(月) いのちを見つめる祈りの集い [Web]
- 10日(水) ～12日(金) 祈祷書改正委員会 [ナザレの家]
- 11日(木) 神学教理委員会 [管区事務所]
- 12日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会 [立教]
- 12日(金) ～13日(土) 拡大青年担当者会(東京)
- 15日(月) 宣教協議会ぶどうの枝分科会(主教会編) [Web]
- 22日(月) 宣教協議会実行委員会[Web]
- 24日(水) ～26日(金) 新任人権研修会 [大阪・奈良]
- 26日(金) 聖公会生野センター30周年記念事業委員会 [Web]

6月

- 5日(月) 聖公会センター検討チーム会議 [管区事務所]
- 5日(月)、6日(火)、7日(水)、8日(木)、9日(金) いのちを見つめる祈りの集い～原発のない世界を求めて～ [Web]
- 9日(金) 主事会議 [管区事務所]
- 10日(土) 原発のない世界を求める講演会 [Web]
- 11日(日) 大阪教区宣教100周年記念礼拝 [プール学院中高]
- 12日(月) いのちを見つめる祈りの集い [Web]
- 13日(火) 聖公会神学院参与会 [ナザレの家]

(次頁へ続く)

※ 管区事務所の就業時間

当面の間、就業時間の短縮をいたします。平日(月～金) 10:00～17:30 全員出勤勤務体制。

※ 4月28日(金)は管区事務所職員研修のため業務を休業いたします。よろしくお願いたします。

まのメッセージではないでしょうか。正しくない、疑いを持ってしまふ弱い存在、心を閉ざして隠れてしまふ弱い存在であることを認めることができるならば、人に優しく、いのちを大切にすることを歩むことができるのではないのでしょうか。「シャローム」という優しさにあふれた日常の挨拶を交わすことのできる関係、平和な普段の生活が回復できることこそが、癒しであり救いであるということを感じたいと思います。心から「主の平和」と挨拶を交わす私ですから。

イースターおめでとうございます。



□各教区

北関東

- ・「信徒一致の日」合同礼拝 主題：「新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。そうすれば、両方とも長もちする。」(マタイ9:17)
司式・説教：主教 高橋宏幸(教区管理主教)
2023年5月3日(水・休) 10時半～ 立教学院聖パウロ礼拝堂(立教新座キャンパスチャペル)

(前頁より)

13日(火) ～15日(木) 主教会〔ナザレの家〕
20日(火) 管区事務所引越し作業
23日(金) ～25日(日) 沖縄週間/沖縄の旅〔沖縄〕

<関係諸団体会議・他>

5月1日(月) ～5日(金) CCA 指導者協議会〔インドネシア・ジャカルタ〕
10日(水) WCRP ストップ!核依存シンポジウム〔広島・カトリック鞆町教会〕
13日(土) WCRP 青年部会50周年記念行事〔京都+Web〕
15日(月) 部キ連総会〔大阪〕
6月11日(金) 大阪教区宣教100周年記念礼拝〔大坂〕
18日(日) ～20日(火) 女性の教役者黙想会〔ナザレの家〕
19日(月) 日本キリスト教連合会常任委員会〔Web〕

†逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ヨシヤ立川 裕(京都教区・退) 2023年4月5日(水) 逝去 (63歳)

きよすみ
フランシス長谷川清純 師
日本聖公会
東北教区主教に就任



主教 フランシス 長谷川清純 師

2023年4月22日(復活節第2主日の週の土曜日)日本聖公会東北教区 主教座聖堂(仙台基督教会)においてフランシス長谷川清純 師の教区主教按手式および教区主教就任式が執り行なわれました。

説教者：主教 笹森田鶴師

(北海道教区主教・東北教区管理主教)



写真提供：東北教区

《人事》

東北

<信徒奉事者認可> 2023年3月13日付(任期1年)
(能代キリスト教会) ナタナエル大高一彦、ダビデ大井光次

横浜

司祭 ヤコブ三原一男(退) 2023年4月1日付 主教イグナシオ入江修管理のもとで逗子聖ペテロ教会において囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

司祭 ステパノ岡野保信(退) 2023年4月1日付 主教イグナシオ入江修管理のもとで茂原昇天教会において囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

<信徒奉事者認可> 2023年3月14日付(任期1年)
(松戸聖パウロ教会) ミカエル溝田悟士

<信徒奉事者認可> 2023年4月1日付(任期1年)
(静岡聖ペテロ教会) マルコ平岡義和

中部

アンデレ川島創士 2023年3月15日付 日本聖公会聖職候補生に認可する。

京都

<信徒奉事者認可> 2023年4月1日付(任期1年)

(富山聖マリア教会) ピリゴ廣瀬康夫

(上野聖ヨハネ教会) ルカ木村直史

(京都復活教会) グレゴリオ加藤 大

<信徒奉事者認可および分餐奉仕協力許可> 2023年4月1日付(任期1年)

(奈良基督教会) ダビデ松本 誠

(聖アグネス教会) サムゾン眞継 穰、サムエル藤村大輔

(岸和田復活教会) チャニング熊取谷志郎、ヒルダ岸 雅子

大阪

司祭 ジョージ林 正樹(退) 2023年3月31日付 大阪聖ヨハネ教会囑託の任を解く。

主教 アンデレ磯 晴久 2023年3月31日付 大阪聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。

司祭 ステパノ柳 時京 2023年4月1日付 大阪聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。

執事 ヒューム ユーワン 2023年4月1日付 桃山学院教育大学にアシスタント・チャプレンとして出向を命じる。(勤務週3日・任期1年)

主教 サムエル大西 修(退) 2023年4月1日付 中部教区からの要請を受け、中部教区内各教会において主日礼拝等への協力を許可する。(任期1年)

司祭 ペテロ岩城 聰(退) 2023年4月1日付 司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教会囑託、司祭テモテ内田望のもと堺聖テモテ教会囑託、司祭ヨシュア原田光雄のもと聖ルカ教会囑託を委嘱する。(任期1年)

司祭 ヨハネ木村幸夫(退) 2023年4月1日付 主教アンデレ磯晴久のもと尼崎聖ステパノ教会囑託を委嘱する。(任期1年)

司祭 ペテロ齊藤 壹(退)	2023年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと大阪聖三一教会(定住) 囑託、司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会囑託、並びに博愛社、聖バルナバ病院、こひつじ乳児保育園チャプレンを委嘱する。(任期1年)
司祭 ウィリアムス竹内信義(退)	2023年4月1日付	司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教会囑託を委嘱する。(任期1年)
司祭 ペテロ竹林徑一(退)	2023年4月1日付	司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会囑託、司祭ステパノ柳時京のもと川口基督教会囑託、司祭マルチン韓相敦のもと高槻聖マリヤ教会囑託を委嘱する。(任期1年)
司祭 ダニエル山野上素充(退)	2023年4月1日付	司祭ステパノ柳時京のもと大阪聖ヨハネ教会囑託、主教アンデレ磯晴久のもと尼崎聖ステパノ教会囑託を委嘱する。(任期1年)
司祭 施洗者ヨハネ山本 眞(退)	2023年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと富田林聖アグネス教会囑託、司祭テモテ内田望のもと堺聖テモテ教会囑託を委嘱する。(任期1年)
司祭 テモテ宮嶋 眞(退)	2023年4月1日付	司祭ヨシュア原田光雄のもと聖ルシヤ教会囑託、聖ルカ教会囑託を委嘱する。 桃山学院囑託チャプレンを委嘱する。(任期1年)
司祭 アモス金 頭昇(大韓聖公会ソウル教区より出向)	2023年4月1日付	司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会協力牧師に任ずる。司祭フランチェスコ成岡宏晃のもと大阪城南キリスト教会協力牧師に任ずる。司祭ステパノ柳時京のもと大阪聖ヨハネ教会協力牧師に任ずる。
司祭 ペテロ金山将司	2023年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと富田林聖アグネス教会協力牧師に任ずる。
司祭 フランチェスコ成岡宏晃	2023年4月1日付	司祭ヨハネ古澤秀利のもと大阪聖愛教会、並びに聖ガブリエル教会協力牧師に任ずる。
司祭 ヨハネ古澤秀利	2023年4月1日付	司祭フランチェスコ成岡宏晃のもと大阪城南キリスト教会協力牧師に任ずる。

神戸

司祭 シモン原田佳城	2023年3月31日付	願いによって退職を許可する。
------------	-------------	----------------

『管区事務所だより』 2023年3月25日発行 第384号 訂正

*4頁 九州 教会名誤植：(正) 福岡ペテル教会 (誤) 福岡聖ペテル教会

*4頁 九州 司祭 ステパノ中村 正(退) 2023年4月1日付 内容について：

(正) 佐賀聖ルカ伝道所主日礼拝 (誤) 佐賀聖ルカ伝道所主日礼拝等 管区事務所

『Thy Kingdom come (み国が来ますように)』の祈りに参加しましょう！

『Thy Kingdom come (み国が来ますように)』は、昇天日から聖霊降臨日にかけて行なわれる、世界的な祈りの運動に付けられたタイトルです。この運動は、2016年にイギリス国教会に向けて発せられたカンタベリー大主教とヨーク大主教の呼びかけによって始められ、世界的な運動に成長しています。そして、『み国が来ますように』を祈るすべての人々がイエスさまとの交わりを深め、イエスさまの証人となるための自信を新たにし、他の人をイエスさまのもとに導くことを目的とします。

今年度も、日本聖公会主教会が11日間の黙想と祈りを担当して執筆した「祈りのしおり」をみなさまにお届けします。印刷配布はいませんが、ノベナ(9日間の黙想)の冊子もご用意して、管区事務所のHPにはPDF版を掲載致しますので、ご活用ください。



お祈りの期間は、昇天日(5月18日)から聖霊降臨日(5月28日)までの11日間です。具体的には、クリスチャンに導きたい家族、友人、知人5名を選び、しおりに名前を記し、その5人のために11日間祈っていきます。

詳細は、Thy Kingdom comeのWebページ <https://www.thykingdomcome.global/> をご覧ください。

(日本語のページも用意されています。また、祈りの登録や各種資料も準備されています。)

今年の昇天日(5/18)・昇天後主日(5/21)・聖霊降臨日(5/28)の代祷などで用いる祈り

イエス・キリストの父なる神よ、『み国が来ますように』の祈りに、わたしたち日本聖公会が参加できますことを感謝します。どうかこの時にあたり、わたしたちが祈ることを通して主イエスとの交わりを深め、主を力強く証しすることができるようにしてください。またわたしたちの覚える5人の友を聖霊によって導き、この人々が主イエス・キリストに出会い、主を信じることができるようにしてください。主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。アーメン

2023年4月1日 日本聖公会 主教会



日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

comm-sec.po@nskk.org 広報主事(鈴木 一)宛て

ブラジル聖公会 日本人宣教100周年 記念礼拝に参加して

首座主教
主教 ルカ 武藤謙一



(3月12日、日本人宣教100周年記念礼拝)

ブラジル聖公会サンパウロ教区のセザール・アウヴェス主教の招待により、ブラジル聖公会日本人宣教100周年記念礼拝に出席するために、3月3日(金)～16日(木)まで、サンパウロ教区とパラナ教区を訪問しました。

ブラジルでの伊藤八十二司祭の宣教

ブラジル聖公会における日本人宣教は1923年3月13日に、ヨハネ伊藤八十二司祭がサンパウロに到着後、仲間7人と礼拝を行なったことが始まりです。伊藤八十二司祭は、長野県伊那市、旧美和村の出身です。英語を学ぶために高遠の教会に行きキリスト教と出会います。1909年、商船学校を卒業し船員として働きますが、翌年航海中に難破、九死に一生を得て、これを機に大阪の聖救主教会で受洗し、聖公会神学院で学びました。1919年、ブラジルに移民として渡った日本人宣教のために働くことを決意し、アメリカに渡って3年間働いて資金を蓄え、1923年3月にサンパウロに来たのでした。その後サンパウロ周辺の日本人移住者の入植地を訪ねて伝道し、信徒の群れが各地にできていきます。やがてその働きはブラジル聖公会の中で認められ、ブラジル聖公会で司祭に按手されます。また各地の共同体もブラジル聖公会の教会として成長していきました。伊藤八十二司祭によって洗礼を受けた人は2000人以上と言われ、また何人もの日系人の

聖職を育てています。晩年はサンパウロ市内で暮らし、1969年8月9日、天に召されました。



伊藤八十二司祭

このたび訪問した各地の教会

今回訪問した教会は、サンパウロから南西に約200キロ、レジストロ市のマンガ・ラルガ(伊藤八十二司祭が最初に伝道のため訪問した場所)にある諸聖徒礼拝堂(3月5日)、さらに南西に200キロにあるクリチーバ市にあるパラナ教区主教座聖堂の聖ヤコブ教会(3月6日)、パラナ州イグアスのカンタベリー聖オーガスチン教会(3月8日)、サンパウロの北西600キロにあるペレイ



▲マンガ・ラルガ諸聖徒礼拝堂前で

ラ・バレットの玉置正和司祭・幸子執事夫妻が長年働かれた聖アンデレ教会(3月8日～10日)、そしてサンパウロ市内にある聖十字教会(3月11日)、伊藤八十二司祭によって建てられた聖ヨハネ教会(3月12日)でした。そして諸聖徒礼拝堂、パラナ教区の聖ヤコブ教会、聖アンデレ教会で日本人宣教100周年を記念して聖餐式を行いました。ことに聖ヤコブ教会では、マギダ教区主教の許可を得て、わたしが日本語で聖餐式司式・説教をさせていただき感謝でした。

3月12日(日)にはサンパウロの聖ヨハネ教会で、ブラジル聖公会の9名の教区主教が参加して、首座主教マリネズ・バソット主教司式、わたしが説教者で記念礼拝が行なわれました。9名の教区主教のうち首座主教を含めて3名が女性の主教、感謝・聖別捧はこの3人によって行なわれました。また午後からは主教会に招かれ、日本聖公会のことを紹介し、またブラジル聖公会、各教区の現状をお聞きすることができました。



▲サンパウロ聖ヨハネ教会にて

ペレイラ・バレットでは、自動車ですら1時間ほど離れたアリアンサの弓場農場を訪問しました。弓場農場は「祈り、耕し、芸術する」ことをモットーに自給自足を目指す日本語で生活する共同体です。創設者の一人弓場勇氏は聖公会の信徒であり、ここでは聖公会の礼拝が行なわれていました。現在は定期的な礼拝は行なわれていませんが、冠婚葬祭には玉置幸子執事が呼ばれるとのことでした。また聖アンデレ教会にある聖アンデレ学校、高齢者支援協会「恵会」での交流、日本人移住者資料館見学もさせていただきました。イグアスでは世界三大瀑布の一つ「イグアスの滝」や「鳥の公園」でブラジルの雄大で多様な自然のなかでリフレッシュする機会も与えられ感謝でした。またペレイラ・バレットの移民資料館、サンパウロのブラジル日本移民資料館を見学し、移住当時の困難な生活の様子、戦前・戦後の移住者の状況などを知ることができました。

日系人信徒の生活

どこの教会を訪ねても日系人信徒の方々がご馳走を持ち寄り、温かく歓迎してくださいました。また空港から市内へ、街から街への移動も日系人信徒の方々が自動車を提供してくださいました。サンパウロではホテルでしたが、それ以外の所では飲食、宿泊はすべてその地の日系人信徒の方のお世話になりました。時には細かくスケジュールを組んでもてなしていただき、ただただ感謝でした。

日系人信徒の方々は自分たちだけで信仰を守っているわけではありません。それぞれの教会において他の皆さんと一緒に信仰生活を送っておられ、教会委員など様々な奉仕をしておられます。お会いした皆さんは大きな声でよく笑い、生き活きとされている姿が印象的でした。

聖公会手帳には、ブラジル聖公会で日本語礼拝を行なっている教会として5つの教会名が記されていますが、サンパウロ教区の教役者のうち日本語で礼拝ができる聖職はペレイラ・バレットにいる玉置幸子執事とサンパウロの川野カルメン司祭の二人だけだそうです。お二人はSNS等を

通じて日々聖書のみ言葉と聖歌を送り、毎主日のメッセージ、月一回の日本語礼拝の動画を配信し、日本語会衆の信仰生活を支えておられます。大阪教区司祭らが継続して主日のメッセージを送るなどされていることをとても感謝されていました。信徒がサンパウロ教区内外の各地に点在していること、高齢の方が多く、教会に行くことが困難な方もおられ、集まるのが困難な状況ですが、オンラインによる礼拝や交わりを皆さん大切にしておられ、ご高齢の方々もスマホなども巧みに活用されています。

ブラジル聖公会との協働

今回の訪問を通して、ブラジル聖公会での日

本人宣教について知り、ブラジル聖公会の多くの皆さんにお会いでき本当に感謝でした。これまでもナザレ修女会の修女や聖職が現地で働いたこともありましたが、現在大阪教区がなさっているような協力はこれからも可能でしょうか。現在では20万人以上のブラジル人が日本で生活しておられます。何かわたしたちにできることはないでしょうか。

地理的には最も離れているブラジル聖公会と日本聖公会ですが、さらに近い関係になれるように、これからもブラジル聖公会との協働関係を大切にしていきたいと思っています。

特集 / 2023 年度の神学校

聖公会神学院 ウイリアムス神学館



(聖公会神学院)



(ウイリアムス神学館)

特集・神学校から

2023 年度 聖公会神学院の神学教育について

聖公会神学院 校長 司祭 アンデレ 中村邦介

いつも聖公会神学院のためにご支援とお祈りを頂き、厚く感謝申し上げます。昨年度は染谷孝章（横浜教区）氏と福永澄（東京教区）氏の両神学生がコロナ禍での3年間の学業を修了して、それぞれの任地に派遣されていきました。しかし御周知のようにここ数年間入学者がゼロという状況が続き、今回の卒業生は在校生として最終学年でしたので、このままでは在校生が皆

無となる懸念がありました。皆様には大変ご心配をおかけしておりましたが、しかし本当に嬉しいことに、今年度本科コース（3年）に1名（中部教区）の新入生を迎えることができました。

また既にお知らせしてきましたが、今年度から新たに2つのオンライン・コースを開設し、「信徒の奉仕・召命コース」には九州教区から2名、横浜教区から1名、東京教区から1名、計4名の受

講者が与えられました。また「特任聖職特別コース」には中部教区から1名と沖縄教区から1名の方が受講することになりました。この結果、総勢7名の方々と新学期をスタートすることになりました。

従来様々な事情によって、寮生活を伴う本校キャンパスで学ぶことが困難であった信徒に対して、神学教育に参加する機会を提供できるようになりました。今までの伝統を継承しつつ、なお従来の枠にとらわれずに可能な限り教育体制のプラットフォームを広げて、一人一人の召命に即した対応を柔軟に講じていきたいと考えています。どうか皆様には引き続き新たな神学生が与えられますようにお祈り頂ければ幸いです。

同時に本校は、現役教役者の継続教育またリカレント教育に一層力を入れたいと考えています。多くの分断と混迷を深くしている世界と社会の中で、如何に「神の世界のための神の教会(ランベス会議)」としてその使命を担うことができるか、様々な難題を抱える現存の教会がその宣教と牧会の働きをドラスティックに捉え直さなければなりません。今神の民に仕える教役者に最も求められていることは、ケア以上にヴィジョン(教会論に基づく宣教的イマジネーション)ではないかと思えます。このような課題のために、あるいは多忙な職務を一時的に離れてリフレッシュする機会としても、一定期間本校に滞在して研究とリトリートに専念できる「継続教育・研究休暇コース」を設けております。是非希望される方はお問い合わせ頂ければと願っています。

さて今年度の主な行事とプログラムについては以下の通りです。

(1)「教役者」のための研修とプログラムについて

○教役者宿泊研修会(6月26日(月)-27日(火)開催予定)

現在進行中の「祈祷書改正」についてどのような方針や改正点があるのか、その課題や内容について、現在祈祷書改正に関わって

いる方々からの報告や課題を中心に理解を深め共有したいと思えます。現任教役者を対象とした研修会です。昨年度の研修会同様、今回も「校友会」からの様々な支援を期待しているところです。

○「アングリカン神学の系譜」学習会:

昨年の記念講演を受けて、聖公会の特質に根ざした「宣教的教会」を目指すためには、その神学的基盤となる聖公会のアイデンティティを探究し、それを踏まえた教会の働きを展開しなければなりません。学習会は、関正勝(立大名誉教授)先生を中心に、主に近代を中心にアングリカン神学を主要な神学者、神学書をテキストとしながら共に学び合うことを目指します。原則として10人程度(教役者)の規模でオンラインを通して月1-2回程度で開催する予定です。

○「説教塾(仮題)」

本校で説教を担当しておられる平野克巳(日本基督教団代田教会)牧師の協力により教役者を対象に、説教の演習を通して共に学び啓発し合う集いを計画しています。み言葉に仕えるミニストリーの向上は、どうしても個人的取り組みでは限界があります。共に学び合う同労者の中でこそ、み言葉からのメッセージを豊かに育み、聴き取り合うことができます。これは、ある意味で「説教運動」として、日本における宣教的教会の形成のために最重要な研修としてあります。今回は関東圏を中心に開催します。

(2) 神学院としての独自の研修プログラム「エルサレム・スタディツアー(第1回)」

生涯に一度は「聖地」に足を踏み入りたいという要望に応えて、エルサレムの聖ジョージ・カレッジの協力の下に実施することになりました。聖ジョージ・カレッジは中東エルサレム教区の主教座聖堂に隣接する敷地内にあり、エルサレムの旧市街に近い場所にあります。今回の研修は、聖ジョージ・カレッジ

の宿泊施設に滞在し、「イエスのパレスチナ・コース」に参加します。期間は8月31日(木)-9月14日(木)、参加者10名(内信徒8名、教役者2名)、引率者は聖地の発掘調査にも参加されている山野貴彦教員、またコースには他のアングリカン・コミュニオンからの受講者も参加しています。聖地についての学びと共に、現在のパレスチナの抱える課題についても学ぶことが出来るでしょう。費用は教役者には交通費以外の研修・滞在費をスカラーシップとして支給します(研修報告を教区・教会で行なうことを条件)。

(3) 教育・研修支援制度について

昨年度は九州教区の「福岡フェロウシップ」: テーマは「説教の再認識」と「教区間教役者の交流」を目的としたプログラムに、また京都教区には「信徒奉仕職のための研修」と「グリーフ・ワーク」研修の受講料に支援をしました。今年度も6月末と12月末を締め切りとして応募を受け付けています。各教区・教会への支援は教区主教の推薦と承認を必要としています。様々なプログラムや研修のために積極的にご活用下さい。

(4) アジアの諸神学校の校長会 (Anglican Seminary Deans Network) の働きかけがあり、英国及び米国聖公の神学教育アジア地区担当者も加わり、フィリピン、台湾、香港、韓国、日本との間でオンラインによる話し合いが現在続けられています。今年度11月9日(木)-13日(月)には直接会って話し合うこととなり、日本での開催が強く要請され、現在その実現のために受け入れを検討しています。アジアの神学校とのネットワークは、日本聖公会の今後の働きと交流に寄与すると考えて、可能な限り協力したいと考えています。

(5) 神学教育における「実習」の再検討について

昨年は実習の授業(毎週)の時間に、教員と学生で検討を続けてきました。また何人かのゲストを招いて、それぞれの経験から

の報告をお聞きしてきました。70年代に神学院の教育改革の新たな柱の一つとして、実習(フィールド・エデュケーション)が必修化されて以来の歩みを振り返りました。特に第30回「聖ルカ国際病院臨床牧会訓練」の中断とその後の試行的な取り組みを検討してきました。これまでの要点としては、①経験学習(Experience/Exploration/Reflection/Response)の解釈 学的スパイラルの徹底(特に聖書・神学的観点からの省察)を図る。②自己省察の深化(生育史的受けとめ直し)を促す。③パイオニア・ミニストリー(グループ及びコミュニティワークの組織のケア)の展開。④コンテクスト(社会的状況)に基づく他者と状況の理解を踏まえて、現に生きている他者の思いを<実存的>に受けとめて応答する信頼関係の構築、などにあります。今年度も引き続き、改めて「省察的实践」としてのミニストリーを焦点にして、この検討作業を続けていきます。

(6) 礼拝音楽プログラム

年間(前期・後期)を通じて「唱詠晩禱」、「レクチャー・コンサート」など本校オルガニスト岩崎真実子氏を中心に、礼拝音楽プログラムを実施します。秋にはナザレ修女会「セーラム聖歌について」牧野環氏の講演会を予定しています。コロナ禍の状況もやや緩和されましたので、新たにマナ・オルガン(パイプオルガン)が奉献された諸聖徒礼拝堂(チャペル)で、これらのプログラムを行ないますので是非ご参加ください。ご案内はその都度行ないます。



特集・神学校から

さまざまな変化の中で

ウィリアムス神学館 館長 司祭 ヨハネ 黒田 裕

いつもウィリアムス神学館をおぼえご加禱とご支援をいただき心から感謝申し上げます。1948年に創立された本館も今年で75周年を迎えました。そのような節目の年に、東北教区にて長谷川清純師が主教に按手され、本館同窓生から初の教区主教が誕生したことはまことに喜ばしく教職員・在校生一同心よりお祝い申し上げます。在校生はもちろんのこと同窓生にとっても大きな励ましとなることでしょう。同師には、2年前の東日本大震災10周年の年に神学校として東北研修をさせていただいた折、プログラムの策定やコーディネートにおいて大変お世話になったばかりでなく、そのミニストリーにおける姿勢にも一同実践的にまた霊的に刺激を受けたことでした。これからの公会でのご活躍に期待しつつ、主のご祝福とお導きをお祈りしております。

(1) 新年度を迎えて

他方、残念ながら今年度は本科への入学者がなかったため入学礼拝を挙行することができませんでした。そこで始業礼拝をもって今年度が開始されたのですが、その礼拝の折、昨秋から主事補としてすでにご奉仕いただいていた津田華枝さん(日本基督教団 西陣教会)と山田敦子さん(京都聖ヨハネ教会)の主事任命式が高地敬主教・理事長の司式により執り行なわれました。今年度はかねてよりご奉仕くださっている前田伸子主事(大津聖マリア教会)を「主事室長」とし、三名の主事体制となります。それぞれ週一回から二回ご奉仕くださいます。専任もしくは専任に近い主事と非常勤の主事補がいる、という体制がとれなくなって久しい神学館の試行錯誤の一環ですが、今後も現場の運営体制についての模索や工夫は続いていくことでしょう。

なお今年度の在校生は本科生2名および教

区派遣科目聴講生1名となります。さらに今年度は、津田謙治先生の代講として津田華枝主事が「教理学特講」を担当くださることとなりました。また好評を得ている「今さら聞けない!キリスト教」講座ですが、こちらも残念ながら今年度は休講となります。なお、過去の講座(2016-2019、2020休講、2021、2022年度)は随時視聴可能ですので、どうぞご利用ください。詳しくは本館に直接ご連絡いただくか、ウィリアムス神学館公式HP「キリスト教講座」のページをご覧ください。



主事任命式を終えて

(2) 霊性の形成と変容

館長として日本で働きつつ、ヴァージニア神学校(VTS)のD.Min(ドクター・オブ・ミニストリー)コースで学ぶ生活も4年目を迎えました。順調に行けば最終年度ということになります。神学生や諸先生、スタッフの協力を得ながらコース・ワークに取り組んできましたが、これもあと一本のレポートを残すのみとなり感謝しかありません。ここからの1年間はおそらく博士論文に取り組む期間となります。このコースの修業論文には「博士論文」という呼称もあるものの「プロジェクト論文」という固有の名称も与えられています。その名が表すように、論文執筆の際に何らかのプロジェクトを自分の現場で行なうことが各学生に課せられています。そこで、本年1月から2月にかけて「日本における孤独と連帯の霊性の展開」と題

する集中講義(全6回)を行ないました。近年若者ひいては各年代にもみられる自己肯定感の低さという日本社会における精神的問題を念頭に置きつつ、海外ミッションによる「自給なければ自治はなし」という方針に端を発する、初期宣教から今に至るまで顕在的あるいは潜在的に継続していると思われる、「精神的自立」や「海外依存からの脱却」といった日本聖公会のミニストリーにおける課題を霊性神学の文脈で捉えなおし、孤独(ソリチュード)と連帯(ソリダリティ)の霊性形成を今後の司牧と宣教さらに神学教育のヴィジョンとしてみたい、というプロジェクト論文の草稿ともいえる内容です。無事に終わることができ、神学生たちとも課題を共有できたことは幸いなことでした。またこの講義終了後の翌週には、番外編としてオールター・ギルドについてのお話を「教会刺繍の会」の姉妹から聴けたのも有意義でした。私自身の取り組みとしては、準備が追いつかず当初予定していたリーダーシップ論にたどりつけなかったことや、まだまだ掘り下げが足りないところ、各セクションの接続が円滑でない、といった今後の課題も浮き彫りとなりました。VTSでは、神学的分析はもちろんのこと、学際的な研究が求められ、殊に社会科学の援用が強く推奨されているのですが、まさにその点について苦慮しています。一方で今年もアメリカでの授業(シンクロナス・セッション)は対面で行なわれる(6月下旬～7月初旬の3週間)ことが決まっているので安堵しているところです。

このコースでの霊性神学の学びを4年前から本館の神学教育に随時還元していることはこれまでも本欄でお伝えした通りですが、昨年度から名称を新たに作り組んできた「霊性の形成と変容」を今年度も行なう予定です。内容としては、昨年度から講読してきたC. V. Paintner and L. Wynkoop, *Lectio Divina: Contemplative Awakening and Awareness*. New York: Paulist Press, 2008の続きを行なった上で、工藤信夫氏の『信仰による人間疎外』および続編にあたる『真実の福音を求めて』を用いて教会

の霊性をめぐる状況を意識化しつつ、特に後者でも言及されていくH. J. M ナウエンの霊性にふれていきます。同時に、月一回程度行なってきたN. T. ライト主教著『シンプリー・ジーザス』の読書会も引き続き行なっていく予定です。さらに、今年の在校生の数を考えると、分かち合いといっても煮詰まりがちとなることが予想されるため、今年度は近隣の教役者にもゲスト参加してもらえるよう個別に声をかけているところです。現場の司牧と宣教においては、様々な協働の機会に恵まれるのも確かですが、孤独のうちに歩を進めなければならないのも教役者のひとつの現実です。この「霊性の形成と変容」という黙想の場が、そんな牧会者の渇きに潤いをもたらし、各自の取り組みを省察し、新たな展望を見出して、同労者同士の、また、その「卵」たちとの連帯を生み出す機会となることを期待してのことでもあります。

(3) 神学館の課題

さらに目に見える「変容」としては、旧京都教区ビルが取り壊されマンション建設が計画されているものの現在も更地となっています。京都ならではと言えそうですが遺跡調査が開始されているため、まだしばらくこの状態が続くようです。もし貴重な発見があれば、その期間はさらに伸びることとなるでしょう。そのため、これまででは不可能だったアングルで神学校の本館であるニコルス館を眺めることができています。また、神学館を含む教区の敷地の北側を将来的にどうしていくか、というのも課題ですが、それは本館のみならず、本質的には、今後教区として神学校をどう位置づけるか、という教区の大きな宣教的、経営的課題とすることができます。

最後に、永年に渡る継続的な課題としてはやはり財政の問題が挙げられます。すでに恒常化していますが、低金利時代が続く基金が果実をほぼ生まなくなっていることから、依然として財政難であることに変わりはありません。今後とも神さまのみ旨にかなう神学教育のため皆様のご加禱、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

■憲法プロジェクトから

平和を求めて思いと言葉を紡ぐ

「いのちをみつめる祈りの集い」(報告)

日本聖公会 正義と平和委員会・憲法プロジェクト 西原美香子

憲法プロジェクトが呼びかけ、今年2月より、毎月第2月曜日の20時～21時に、「いのちをみつめる祈りの集い」を開催しています。

この集いの大きなテーマは「キリスト者である私が平和憲法にこだわる理由^{わけ}」です。誰もがさまざまな立場で平和を願って祈っています。しかしながら、世界各地で武器を取り、多くのかげがえのないいのちが、今この時も奪われています。また、人々の尊厳が蔑ろにされるような出来事もあとを絶ちません。キリスト者として、神さまから与えられたかけがえのないいのちを守り、互いにその存在を愛おしむ者でありたいと願う一方で、私たち、そして私たちの教会は、ともすれば自分たち内なる平安だけに目を向け、この世界の出来事やそれにつながる私たちの社会や国の政治から目を背けることがあるのではないのでしょうか。教会の中で「政治のことは語るな!」という言葉も耳にします。

日本聖公会の正義と平和委員会・憲法プロジェクトは、その名のとおり、平和憲法と呼ばれる日本国憲法をととも大切なものと考えて活動しています。アジア太平洋戦争への道を止められなかった、角度を変えて言うならば、戦争に加担した教会の反省に立って、不戦の誓いを立てたこの日本国憲法を守り活かしていく大きな責任があると考えからです。日本国憲法のどの条項をとっても、その根底には、一人ひとりのいのちの尊厳を守る精神が脈々と流れており、ことに第9条は、不戦の誓いことどもらず、貧困問題の解決・地球環境の回復・ジェンダーの構築ほか、世界規模の巨大な課題を解決する鍵であると確信しています。キリスト者である私たちは、そこに、神さまが望まれる「神の国」の実現を重ね

合わせます。平和の課題を「政治的」だと教会内で語ることを拒絶するのではなく、「いのちをみつめる」をキーワードにすることによって、教会内で誰もが構えることなく平和について話し合えるようにしたいと願い、この集いをスタートしました。

この集いは3部構成で、第1部は「語り」、第2部は参加者が小グループにわかれての「思いのわかちあい」、そして第3部は「いのちをみつめる祈り」の時間です。第1部の「語り」では、戦争体験者のほか、いのちの尊厳の回復のために取り組んでおられるさまざまな世代・現場の方を迎えます。第1回の集いでは、相澤牧人司祭(横浜教区退職司祭/元管区事務所総主事)が「キリスト者の私が平和憲法にこだわる理由—安心して生きていきたいから」、第2回では、植松誠主教(元北海道教区主教/前首座主教)が「平和を造る人々は幸い～愛、赦し、和解を求めて～」というテーマでお話してくださいました。

2月の集いで相澤司祭はこのように語ってくださいました。「祈りとは何か。政治はいのちの問題を扱っていくことでもあります。教会で政党のことを扱うのは問題があるかもしれませんが、政治のこと、いのちのことに関心を持つことは大切なことでしょう。主の祈りに「み国が来ますように」との祈りがあります。この祈願はどういう意味なのかを明確に捉えていなければならないでしょう。み国とは、み心が行なわれる所です。神の意思が行なわれている所、つまりその状態が神の国です。そしてそれは、いのちを大切にされるということでしょう。イエス様はこのように祈りなさいと言われて主の祈りを教えられたのです。それ故に、いのちの問題は教会が率先して

語り伝えていかなければならないことでもあるのではないのでしょうか。政治はいのちの問題でもあるのだと、理解できるかどうかが問われてくるのだと思います。」

また、3月の集いで植松主教は、「今日お話しすることは必ずしも憲法のことではありません。むしろ私がこれまでの生涯の中で、特に、教会の聖職者として生きる中で学んだこと、気づかされたこと、考えさせられたこととお話しさせていただく中で、それらのことが、結局はすべて憲法と無関係ではなかったということをお願いしたいと思います。」と前置きされ、正義と平和、和解の働きに関わったきっかけとして、米国留学中に会った元日本軍捕虜の方とのエピソードをはじめ、ご自身がいくつもの出会いの中で経験された出来事と気づきについてお話してくださいました。

この集いは憲法プロジェクトのみならず、正義と平和につながる諸委員会・プロジェクトとも連携したいと思っています。6月は、「原発のない世界を求める週間」を呼びかける原発プロジェクトとコラボレーションして、集いで語り原プロジェクトの長谷川清純主教(東北教区)をお願いしています。

毎月の集いの参加対象を、聖公会の教役者や信徒に限らず「どなたでもどうぞ」と開いたところ、他教派の方の参加も多く、エキュメニカルで豊かな集いとなっています。お話をいただく方も、教派を超えて依頼中です。4月以降の「語り」は以下の方々にお願いしています。その他の月については、参加者の皆さんからの自他推薦も歓迎しながら、豊かな交わりを重ねていきたいと思っています。

4月10日: 金迅野^{きむしんや}牧師(在日大韓基督教会横須賀教会)

テーマ「～危機と、表現された主体と、「平和」が意味するものをめぐって～」

5月8日: 平良愛香^{ひらあいか}牧師(平和を実現するキリスト者ネット事務局代表/日本基督教団川和教会)

6月12日: 長谷川清純主教(東北教区/日本聖公会正義と平和委員会 原発問題プロジェクト)

7月10日: 川崎祐子^{かわさきゆうこ}さん(鹿児島復活教会 『戦争証言集』執筆者の川崎千恵^{かわさきちづえ}さんのお嬢さん)

8月14日: 調整中

10月9日: 大倉一美^{おおいさみ}神父(カトリック東京教区)

*いずれも第2月曜日 20時～21時

*Zoomによるオンライン

事前申し込みは不要。以下のURLよりZoomに直接お入りください。

<https://onl.sc/1LPhKyg>

ミーティングID: 886 5801 2800

パスコード: 222911



「いのちをみつめる祈りの集い」が、語り部の方や参加者の互いの思いと言葉を紡ぎ、平和を求める者たちの輪を広げる時間となればと思います。そしてそこに集う私たちの心を整え、神さまが望まれる平和の器となれるようにと祈ります。

2023年5月3日
憲法記念日によせて

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。
彼らは剣を打ち捨てて鋤とし
槍を打ち捨てて鎌とする。
国は国に向かって剣を上げず
もはや戦うことを学ばない。

イザヤ書2章4節

もはや
戦うことを
学ばない
主の光の中を歩もう

憲法プロジェクトでは、毎月第2月曜日の午後5時より、「いのちをみつめる祈りの集い」をオンラインで開催し、キリスト者である私たちが、なぜ平和を祈り行動するのか、教会につながるさまざまな方から話を聞いて、祈りの時間をもちます。どなたでもどうぞご参加ください。

*Zoom情報: <https://onl.sc/1LPhKyg>
ミーティングID: 886 5801 2800 / パスコード: 222911

日本聖公会 正義と平和委員会 憲法プロジェクト

青年委員会の現状報告と 「日本聖公会 2023 全国青年大会 in 東京」開催に向けて

管区青年委員 司祭 ステパノ 越山哲也

1. 青年委員会の現状報告

管区の青年委員会は、千松清美司祭を委員長に、相原太郎司祭、上平更司祭、新田紗世さん、松村希さん、越山哲也司祭、そして笹森田鶴主教が担当主教として、卓志雄司祭が宣教主事として一緒に活動してくださっております。

コロナ禍にあって委員同士もなかなか対面してミーティングをすることが出来ず、WEBによることが多く、また各教区の青年に関するキャンプ、集会J26集会CEEAアジア青年大会、日韓聖公会青年セミナー（日韓協働委員会主催）、各教区の青年担当者の集い、NCC（超教派）の諸青年プログラムのどれも開催無期限延期、もしくはWEBによる開催がこの3年続いています。青年活動に限らず、主のもとに集められた群れの意味エクレシアを語源にもつキリストの教会の礼拝、活動において「集まる」ことが出来ないことは正直本当に寂しいことでした。青年たちそれぞれにも、また青年活動にも少なからず影響を及ぼしている現状の中であって青年委員会で、現在最も力を注いで準備を進めているのが今夏の日本聖公会2023全国青年大会です。

2. 七年ぶりの全国青年大会開催に向けて

全国青年大会は、日本聖公会の青年活動を活性化するために、また青年たちが会おう場としてこれまで行なわれてきました。また、大切な事としてその時代の出来事、状況とも向き合いながら、また開催地の課題や大切に向き合ってきたことを皆で共有することを大切にしてきました。そして、全国の青年が同じ場所に集まるパワーと、そこで得られる恵みを分かち合ってきました。

そして、青年大会の場は特別な時ではあるけれどずっと留まっている場所ではない、「楽しかった!!」で終わってはいけません。大切なのは集

められて、そしてそれぞれの教区、教会、「生きる現場」にイエス様の祝福の中で戻っていく（遣わされていく）ことが青年大会で大切にされてきたことでした。

1992年に天城山荘で開催された全国青年大会以降、4年ごとに開催されてきた青年大会は、2020年に関西で開催予定とし、京都教区と大阪教区の青年たちで実行委員会が組織されて準備が進められていました。日程、会場、聖句、テーマ、プログラムなどが決まりつつあった時にコロナ禍となり、断腸の思いで2020年青年大会の中止（無期延期）として、実行委員会も解散いたしました。

それから青年大会の開催について青年委員会では話し合いを続けてきました。各教区の青年担当者の方との意見交換、各教区の青年の皆さんの思いを聴く時もオンラインで行なってきました。その時点では「オンライン」による青年大会の可能性も視野にいれていましたが、コロナの状況の見通しが全く見えない状況で青年大会の開催についての話し合いもなかなか煮詰まっていきませんでした。そのような過程の中で青年委員会では、青年大会開催のために必要な「感染対策」の助言を頂くために北海道教区の犬友宣さん（信徒で医師）を講師に招きオンラインでお話を伺う機会を持ちました。

犬友先生は雲をつかむようなあいまいで抽象的な「感染対策」が先にあるのではなくて、「集まって」青年大会をやるためにどのような「感染対策」をとるのかを大切にしていきたいと語られたこと、そして「集まることの意義」「教会は集まることを大切にしてきた」この意味を真剣に考えて欲しいと語られました。青年委員一同大いに励まされ、目が覚めた思いでした。また、青年

大会の歴史を振り返るならば各教区の青年活動を盛り上げていくことを目的として始まったことに改めて注目し、コロナ禍で止まってしまった各教区の青年活動を勇気づけるために全国青年大会を集まって開催することの意義を確認いたしました。そして、オンラインの恩恵も感じながら、やはり「集まりたい」という思いを大切に2023

年に「集まって(対面)」青年大会を開催することを決めました。今年8月31日(木)-9月3日(日)、東京で日本聖公会2023全国青年大会が開催予定です。すでにご案内のポスターと大会要項が各教会に届いていると思いますので、皆さま是非お祈りくださり、青年たちを青年大会参加のために送り出して頂けると幸いです。

世界の聖公会の動向

- ☆ ケニアのサミー・ワイナイナ博士が、アングリカン・コミュニオンの顧問に就任
- ☆ アオテアロア・ニュージーランド、ポリネシア聖公会大主教、一堂に会す
- ☆ 米国教会とスウェーデン教会がフル・コミュニオン協定を締結

管区事務所渉外主査

司祭 ポール・トルハースト

○ケニアのサミー・ワイナイナ博士が、アングリカン・コミュニオンの顧問に就任

ナ イロビの諸聖徒大聖堂の首席司祭であるサミー・ワイナイナ博士が、カンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師のアングリカン・コミュニオン顧問に任命された。博士は5月に新ポストへ就く予定である。

アングリカン・コミュニオン大主教顧問は、ランベス宮殿の小規模なチームを率い、コミュニオンにおけるカンタベリー大主教を支援し、アドバイスをこなす役割を担う。また大主教のアングリカン・コミュニオン内での訪問を調整し、大主教宛ての連絡を管理する責任を負うこととなる。

このチームは、英国聖公会の各教区とリンクしている。ランベス宮殿の当チームはアングリカン・コミュニオン・オフィス(ACO)の一部ではないものの、ACOのスタッフがコミュニオンの4つの器すべてをサポートしているため、ワイナイナ博士はアングリカン・コミュニオン・オフィス(ACO)に定期的に訪れることとなる。

サミー・ワイナイナ博士は、昨年9月にアングリカン・コミュニオン事務局総主事に就任したア

ンソニー・ポッゴ司祭の後を継ぐ。

サミー・ワイナイナ司祭は、1996年に彼が育ったケニアのナクル教区で接手された。牧師、大執事、首席司祭補佐を経て、2013年12月より諸聖徒大聖堂の首席司祭を務めている。

ジャスティン・ウェルビー大主教は次のように述べている。「サミー師は長きに渡り献身的で誠実な司祭であり、ケニアの諸聖徒大聖堂の創造的で伝道的な首席司祭でもありました。彼がランベス宮殿の多様なチームに加わり、世界中のアングリカン・コミュニオンに向け、私たちの働きをサポートして下さることに感謝します。教区と大聖堂での彼の働きは、異なる聖公会間の伝統にまたがった経験と相まって、ランベスの先任チームにとって貴重な貢献となるでしょう。」

○アオテアロア・ニュージーランド、ポリネシア聖公会大主教、一堂に会す

➤ のほど、フィジーのスバにある聖三一大聖堂に1,000人以上の礼拝者が集まり、シオーネ・ウルイラケパ師のポリネシア教区主教への接手と就任を祝った。

ポリネシア教区主教は自動的にアオテアロア・ニュージーランド、ポリネシア聖公会の大主教となり、それぞれが異なる文化の流れを表す3人の大主教のうちの1人となる。全編ライブ配信された礼拝では、マオリ系指導者のドン・タミヘレ大主教とヨーロッパ系指導者のフィリップ・リチャードソン大主教が、ポリネシア系指導者であるシオーネ大主教を管区の大主教として迎え入れた。

2021年半ばにフェレイミ・カマ大主教が逝去されて以来、ポリネシア教区はアオテアロア・ニュージーランド教区大主教の管理下に置かれている。

特に気候変動が原因で困難が増す世界において、シオーネ大主教は人々が重大な課題に直面したとしても、キリストへの希望がすべてを刷新することができると思う。

「私たちの課題は、今直面する新型コロナ、サイクロン、火山の噴火などの危機において少しでも良い成長ができるよう、神と、そしてお互いパートナーシップを結ぶことです。私たちの希望とは、荒廃の中から新たな命が生まれる証しである祈りと礼拝、そして教会の働きを通じ、強靱な力を築く実践的な活動をしていくことにあるでしょう。」

○米国教会とスウェーデン教会がフル・コミュニケーション協定を締結

3月27日の感謝祭の礼拝において、米国聖公会の総裁主教であるマイケル・カリー大主教とスウェーデン国教会ウプサラ教区の首座主教であるマルティン・モデウス大主教が覚書に署名し、両教会のフル・コミュニケーション関係を確立させた。

「私たちは長い間友好関係にあったからこそ、今日協定に署名するのです」と、モデウス師は説教の冒頭でこう述べた。それは教会と精神の歴史であったが、より重要なのは「崇高な未来」である。

非公式に「パリ協定」として知られる覚書は、

2022年に米国聖公会総会とスウェーデン国教会総会で承認された。

長い間、スウェーデン国教会（※2000年まで国教会であったスウェーデン福音ルーテル教会）は米国聖公会と良好な関係を築いてきたとモデウス師は述べる。「実践的なことを学ぶだけでなく、また違った新しい方法で自分たち自身を見ることができるのです。私たちが異なっているのは神の祝福であり、教会の多様性の表れであり、私たち皆にとって良いことなのです。」

エキュメニズムとは定義上、キリスト教徒たちが関係を築き、共通の使命と団結に向けて協力することを意味する。この文書の中で両教会は、使徒的信仰の告白を共有することなど、5つの具体的なポイントにおいて互いの共通点を認めた。さらに、交わりを深めるためのグループを設立すること、各教会の洗礼を受けた人を自らの同じ教会のメンバーとしてみなすことなど、9つの約束を取り決めた。

『ヨハネによる福音書』第17章、最後の晩餐の中でイエスは弟子たちのために『皆がひとつになるように』と祈られました。その背景には、人間が神の家族として、神の愛するコミュニティとしてまとまること、原初からの神の夢だったという確信があると思います。それが皆がひとつになれるという希望であり、意思でした。」と、カリー師は協定調印の朝に語った。

「イエス様がおっしゃっていたのは、すべての人が家族となってお互いを思いやるという神の夢を、後に続く人々に反映して行ってほしいということだったと思います。私たちのエキュメニカルな宗派間の関係はすべて、過去の分裂を乗り越えて深く私たちを結びつける運動となるための、祈りの表れです。そしてそれこそが、家族を新たに集わせる神のみ業なのでしょう。」



管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会
NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

声明文

不当な「徴用工解決案（日帝時代強制徴用解法）」の撤回を求めます。

日韓両聖公会は 1984 年から多くの社会的懸念があった中においても、心からの謝罪を基に共同プロジェクトなどを通じて過去の傷みを共有し癒しと和解に向けた、草の根レベルの日韓関係を形成してきました。この両聖公会の癒しと回復と和解の歩みは、アングリカン・コミュニオンにおいても、過去の植民地支配における葛藤の解決への新たな取り組みの事例として評価されています。

しかし、私たちは 3 月 6 日、被害者の願いを踏みにじった第三者による弁償方式で日韓関係の解消を一方的に発表した韓国政府は、未来の平和への歩みではなく、痛ましい歴史の誤謬を繰り返す姿であり、これを歓迎して強制徴用自体を否定する日本政府の対応を認めることはできません。両国の未来への真の和解の道は、痛烈な反省と真なる謝罪が基盤であり、それは変えてはならないと考えます。

植民地朝鮮時代の強制徴用の賠償問題は、すでに 2018 年韓国最高裁判所で非道徳的な不法行為として判決となり、被告の日本企業に賠償が命じられました。

これに対して日韓両聖公会は、被害者の同意なしに過去の痛ましい歴史を金銭的に簡単に解決しようとする非聖書的、非倫理的な歴史認識について深く憂慮し、今回韓国政府が発表したような解決方法は真の解決につながるものではないと考えます。

また、韓国政府の発表の背後には、平和を愛する多くの人々が懸念する日米韓の軍事同盟の強化を通じた新冷戦体制を築こうとする試みがあることに注目しなければなりません。これは東北アジアの軍事的緊張を高め、私たち皆を新たな脅威にさらすこととなります。

日韓両聖公会は、これからも深い絆による協働の道を歩むために、日韓の間に横たわる徴用工問題の解決は、韓国政府の「第三者弁償案」ではなく、日本側の強制徴用に対する謝罪と責任ある履行と、被害者との合意が前提とされなければならないという認識を共有し、共に以下の事項を求めます。

- 韓国政府は、強制徴用に関わった日本の企業が参加しない第三者による弁償案を撤回すること。
- 強制徴用に関わった日本の企業と日本政府が、強制徴用被害者に謝罪し、法的な賠償を行うこと。
- 両国政府は被害者の苦痛と要求に応え、東北アジアの平和のために努力すること。

2023年4月9日

大韓聖公会韓日共同委員会 委員長 主教 朴 東信（パク・ドンシン、大韓聖公会釜山教区主教）

日本聖公会日韓協働委員会 委員長 主教 磯 晴久（日本聖公会大阪教区主教）



11月に行なわれる宣教協議会への各教区からの参加者もほぼ確定し、清里に向けて具体的な準備に取りかかる時期となつてまいりました。前号でも触れましたが、実行委員長・磯晴久主教からの宣教協議会へのお招きのメッセージが動画で公開されています。

「宣教協議会への招き」(要約)

この宣教協議会は、2012年宣教協議会の「10年後に実りを持ち寄ってもう一度協議会をしましょう」という約束を受けて開かれる。実りを持ち寄るということに留まらず、その後には起きている多くの困難—新型コロナウイルス、世界各地の争い、環境問題や災害—の中で苦しんでいる人、生きづらさを感じている人がたくさんいることを共に考えたい。また教会も色々な課題を抱えている。私たちは岐路に立ちっており、これからの道をどう歩んでいこうかと悩んでいると思うが、希望をもって旅を続けて行きたい。

中村哲医師は医者としてアフガニスタンに入り医療活動をしていたが、この人たちにまず必要なのは水とパンだとの気づきから、灌漑施設を作り、土地を耕し、地域の人と一緒に歩んだ。私たちは複雑な社会の中に生きているが、今行なわなければならない事、関わらなければならない事は意外にシンプルなこともかもしれない。それをみんなで発見していきたい。

私たちには様々な賜物を与えられている。そのことに気づいてそれを持ち寄り、知恵と力、想像力と意見を出し合つて新しい

宣教のビジョンを発見する、そのような協議会になったらと心から願っている。主イエスが私たちのところに来てくださった、隣人愛の大切さを伝えるために来てくださったということを忘れず、そのことを見つめながら進んで行きたい。できるだけ多くの方に、いろいろな形でこの宣教協議会に参加していただけたらと思う。

メッセージの動画はこちらから
ご覧いただけます →



「ぶどうの枝分科会／祈禱書改正委員会編」

可能な限り色々な立場の方々とは分かち合いができるようにとオンラインで企画してきた「ぶどうの枝分科会」。3月16日(木)には祈禱書改正委員会のみなさまがご参加くださって集いが開かれました。

各自の自己紹介と実行委員会からの今宣教協議会のテーマ・これまでの流れについての説明の後、まず祈禱書改正委員長の吉田雅人主教が、2014年に立ち上げられた祈禱書改正準備委員会以来の経緯、また何故改正が必要か、祈禱書の位置づけなどについて、そして大切な「ミッション・ステートメント」についてお話をいただきました。『祈禱書改正ニュース』第1号の4-5頁「『ミッション・ステートメント』について—基本的理念と方向性—」を是非お読みいただきたいとのことです。

(祈禱書改正委員会ホームページ

<https://johnan18942.wixsite.com/>

nskk-prayerbook2026

もごらんください)



次に市原信太郎司祭から、11のグループに分かれて進められている作業の現状と各分野の改正点についてパワーポイントを拝見しながら伺いました。改正作業は本当に大仕事で、祈祷書改正に携わる先生方がご苦労されている様子が伝わってきました。

その後15分ほど、4~5人のグループで話し合いをし、最後に全体で分かち合いをしたのですが、「祈祷書の解説書があると良い」という意見が印象に残りました。祈祷書についてもっと知り、活用していくことで私たちの信仰生活は豊かにされていくことでしょうか。新しい祈祷書を楽しみに待ちたいと思います。また宣教協議会当日には、祈祷書改正委員会の新しい式文案による「朝の礼拝」をささげる予定です。

「パネリスト紹介」

さて、宣教協議会の2日目プログラム、パネルディスカッションをご担当くださる5名の講師の方々をご紹介します。

☆安達美樹さん：大阪府豊中市出身。1992年より幼児教育に携わる。1999年公益財団法人KEEP協会清里聖ヨハネ保育園入職（～2008年）、2022年再び同保育園に入職、現在同保育園主任保育士。清里聖アンデレ教会信徒。『田んぼのようちえん 聖ヨハネ保育園の実践』共著者の一人。

☆堀江有里牧師：信仰とセクシュアリティを考えるキリスト者の会（ECQA）代表、日本基督教団牧師（京都教区巡回教師）、公益財団法人世界人権問題研究センター専任研究員。関西学院大学ほか非常勤講師。専門領域は社会学、ジェンダー論、クィア神学。1994年より性的マイノリティの相談業務に従事。

☆竹迫 之(いたる)牧師：日本基督教団・白河教会牧師、1967年秋田市生まれ。高校3年生時に、いわゆる統一協会に知らずに勧誘され入会、活動中の負傷を機に19歳で脱会。統一協会をはじめとする「カルト」の問題に関わる中で牧師となり、現在、主に脱会当事者や2世脱会者の精神的ケアに関して研究中。

☆半田ウィリアムズ郁子司祭：英国国教会リーズ教区司祭。リーズ大学病院、聖路加国際病院にてチャプレンとして勤務。またICU（国際基督教大学）の大学教会の説教を定期的に担当。「和解」を学ぶ読書会や、学生が安全に不安を話せる場「てばなすペーす」を開催。英国での元捕虜や家族の和解の働きにも長く取り組んでいる。

☆マルコ柴本孝夫司祭：福岡聖パウロ教会、久留米聖公会牧師。九州教区宣教局長、他。1965年福岡県久留米市生まれ。大学卒業後福祉関係へ進むことも考えるが、勧めを受け聖公会神学院へ入学、1994年司祭按手。長らく管区の正義と平和委員・協力委員、災害支援やホームレス支援活動に携わる。

パネルディスカッションの後には分科会が、また小グループに分かれてのシェアリングも予定されています。講師のみなさまの、それぞれユニークなご経験からのお話がとても楽しみです。

清里に集まることのできる人数は限られていますが、各地におられる方々とつながり、共に経験することができたらと、オンラインでの配信なども計画しています。多くの方に関心を持っていただける宣教協議会となることを願っています。